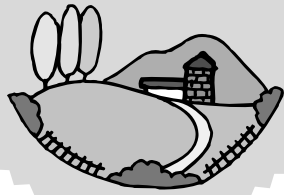


高尾の森 わくわくビレッジ を東京都教育委員が訪問



木村委員長
鳥海委員
米長委員
内館委員
高坂委員

10月31日、東京都教育委員が5名全員で、「高尾の森わくわくビレッジ」を訪問しました。「高尾の森わくわくビレッジ」は、東京都教育委員会が、青少年をはじめとする都民の方々の自主的な活動を支援するため、新たに整備を進め、平成16年3月、区部にオープンした「東京スポーツ文化館(BumB)」に続いて、平成17年4月に多摩地域の施設としてオープンしました。

本施設は、旧都立八王子高陵高校の施設設備を最大限に活用して改修・整備された施設で、運営は、PFI(注1)の手法を採用しています。

また、東京都から委託されている社会教育事業については、「ボランティア・リーダー養成講座」「サバイバー入門キャンプ」「一泊避難体験～防災意識を高めよう～」「子育て支援キャンプ～おやじと子のわく

注1 PFI (Private Finance Initiative)
公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金やノウハウを活用することにより、公共サービスの提供を行う事業手法

わく親子キャンプ～」等が実施され、徐々に充実してきています。

今後の展開については、1. 高尾山を利用した活動の促進 2. 活動団体・NPOなどとの連携 3. 企業のCSR活動(企業の社会的責任)の取り込み 4. 活動プログラム提供の充実等を目指しています。

PFI事業者からの説明では、4月オープン以来、利用者は、徐々に増え続け、9月末現在の累計宿泊者数は、16,619名に達していますが、今後、さらに多くの都民の方に利用していただくために、PRに力を入れている旨の報告があり、委員からは、「『高尾の森わくわくビレッジ』が親しみを込めた4文字の愛称で呼ばれる

ように頑張ってください。」との言葉がありました。



心の東京革命

米長邦雄の 親子ふれあい将棋教室(秋期)

笑顔、笑顔…親子で奮闘!



指導者に当たられた方

米長邦雄 連盟会長	加瀬純一 六段
佐藤康光 棋聖	櫛田陽一 六段
塚田泰明 九段	村中秀史 四段
北浜健介 七段	坂東香菜子 女流2級
沼 春雄 六段	小田切秀人 指導棋士四段
有野芳人 六段	



11月3日(木・祝)、都内在住の5歳から14歳の子どもと保護者及び見学者等280人が参加して、「米長邦雄の親子ふれあい将棋教室(秋期)」が開催されました。

指導には、東京都教育委員の米長邦雄社団法人日本将棋連盟会長を始め11名の方が当たりました。

指導対局では、対局後、プロ棋士の方々は、子どもたちに、良かった手や悪かった手などを丁寧に説明され、励ましの言葉をかけていらっしゃいました。

また、対局では、保護者が見守りに徹している親子、相談をしながら対局に当たる親子、時には思わず保護者が対局してしまう親子と様々でしたが、終了後の満足そうな表情が印象的でした。

その他、今回は特別に、佐藤康光棋聖にお話を伺うコーナーを設けました。

佐藤棋聖は、「将棋」をめぐるご両親とのかかわりについて、「将棋を教えてくれたのは父でした。けれど、私が父より強くなった頃から、父は、私とは全く将棋



を指さなくなりました。今は、好きな将棋の道を歩むことを応援してくれた両親に感謝しています。」と話されました。当日の参加者も佐藤棋聖と同様に、そのほとんどが、「将棋を教えてくれたのは、おとうさん」と答え、司会者が「今、お父さんより将棋が強い人は手をあげてください。」と聞くと、三分の一の子どもが手をあげていました。

また、参加した子どもから佐藤棋聖の強さの秘訣を聞かれると、「何事も一つずつコツコツと努力することです。」と答えられました。

今回は、「都立高校におけるボランティアの日」ということもあり、都立日比谷・白鷗・武蔵野北高校「将棋部」の17名と顧問の先生が、ボランティアとして運営に協力してくれました。

参加の子どもからは、「高校生と対局できて、勝ってうれしかった。」との感想もよせられました。高校生からは、「大変だったけど、充実した時間が持てた。」等の感想がありました。

